

## 近江米新品種「みずかがみ」の 良食味安定生産の実証と生産拡大

対象者 「みずかがみ」生産者群

### 【普及活動のねらい・対象】

近年の温暖化傾向により、早生品種を中心に白未熟粒(乳白・背白・基部未熟粒)の発生が助長され、特に「キヌヒカリ」については品質の低下が顕著となっています。甲賀管内の水稲品種の作付面積(3,098ha、25年産)のうち、「キヌヒカリ」(43%)、「コシヒカリ」(25%)、「日本晴」(17%)の3品種で84%を占め、「キヌヒカリ」の作付が多い状況です。

そこで、本県で育成された高温登熟性に優れる新品種「みずかがみ」の地域適応性を「キヌヒカリ」を対照として生育、収量、品質の面から調査するとともに、平成27年産作付面積350haを目標として、関係機関・団体や生産者が一体となって進めることとしました。

### 【普及活動の経過】

#### 1. 地域適応性確認のための展示ほ設置

関係者一体となった推進とするため、甲賀地域農業センター水田営農班で地域別に展示ほを設け、適応性の調査や現地研修会を実施しました。

8月の日照不足によって成熟期は25年より遅くなりましたが、ほぼ目標の収量が確保されました。

外観品質は全ての地点で「キヌヒカリ」を上回り、食味値は4地点(甲南、湖南、信楽、土山)で「キヌヒカリ」より高くなり、良食味であることが確認できました。

#### 2. 平成26年度生産者の栽培概要

管内では約200戸、147haでの栽培があり、食味コンクールの栽培管理の記録等から状況を取りまとめました。その結果では、日照不足の影響で未熟粒の発生が多くなりましたが、防除は適期に行われカメムシによる斑点米被害は大幅に減少しました。収量は8~9俵、1等米比率は61.3%となり、「面積を増やして作りたい」との意見をいただいています。

表 展示ほ調査結果

	甲賀管内 展示ほ6か所 (2014)	農業技術振 興センター (参考) (2014)
移植日	4/28~5/4	5/9
出穂期	7/18~23	7/23
成熟期	8/21~25	8/26
稈長(cm)	75~82	86
穂数(本/m <sup>2</sup> )	320~440	453
収量(kg/10a)	516~586	632



展示ほでの現地研修会

### 【普及活動の成果】

展示ほの設置、現地での研修会を通じて、生産者が納得できる結果が得られたことから、27年産からJAの特別栽培米で「みずかがみ」が新規に取扱いされることになりました。

関係者一体となって平成27年産の目標作付面積350haに向けた生産拡大と品質・食味の安定を目指した取り組みを引き続き行っていきます。(中山)